

資料3

令和5年7月19日

令和5年度第1回千代田区  
生物多様性推進会議

ちよだ生物多様性推進プラン  
改定素案（資料編）案  
～千代田区の生物多様性～

<資料編目次>

1. 千代田区の自然環境の状況

1.1 千代田区の地形

1.2 千代田区の植生と土地利用

1.3 千代田区の生物多様性

(1) 皇居吹上御苑の自然（文献調査）

(2) 千代田区の生きものたち（自然環境調査）

2. 生物多様性に関する千代田区民の意識（アンケート調査）

2.1 区政モニターアンケート（令和4年実施）

2.2 区民世論調査アンケート（令和4年実施）

【参考資料】

1. 自然環境に関する文献調査概要

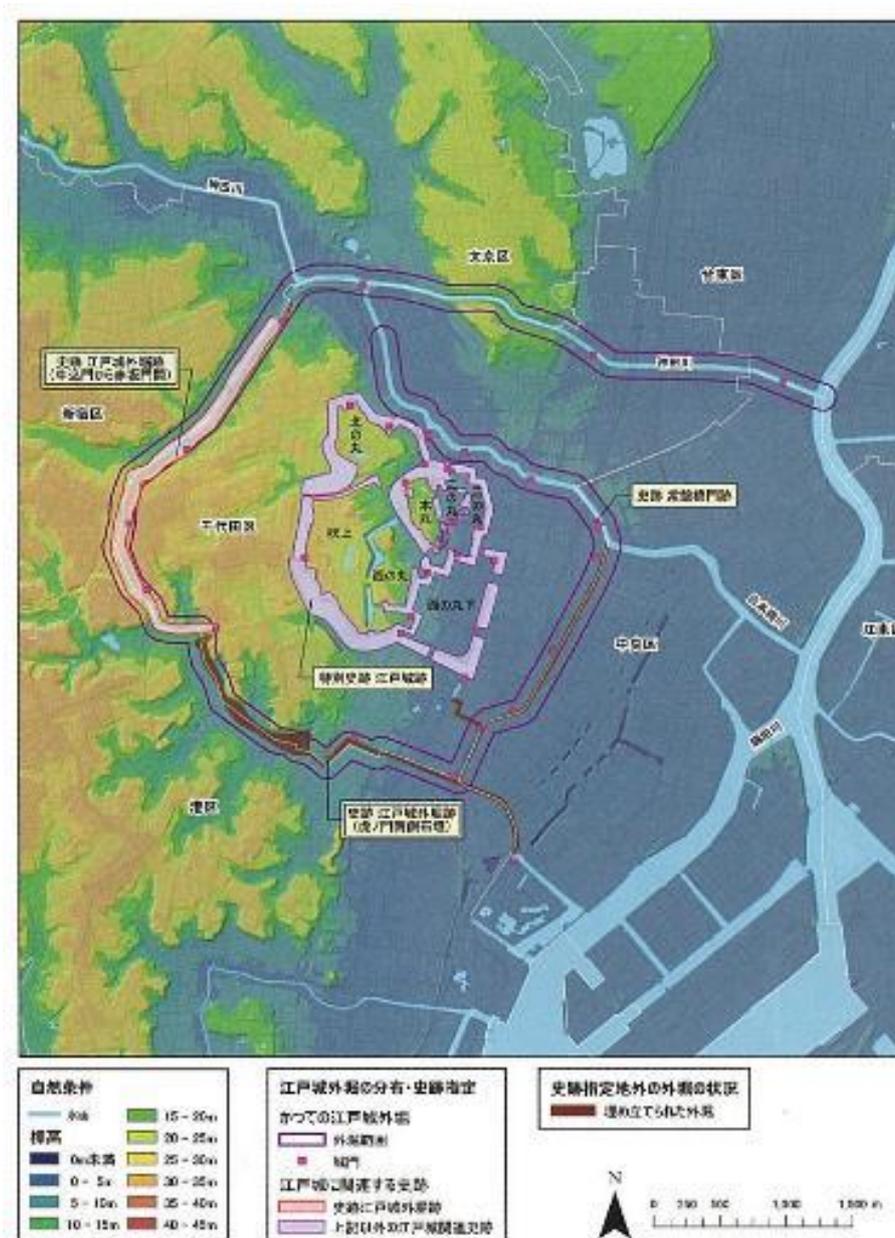
2. 自然環境調査（モニタリング）確認種一覧

# 1. 千代田区の自然環境の状況

## 1.1 千代田区の地形

台地と低地が接するところに位置する千代田区は、皇居から西側に台地が、東側に低地が広がっています。台地には神田川支流や汐留川などが刻んだ谷が入り組み、紀尾井坂、清水谷坂、山王坂、行人坂など、現在も「坂」のつく通りの名称として、谷地形の面影が残されています。江戸城外濠もこのような谷地形を巧みに利用して築かれたものです。

皇居の北側及び東側一帯は低地となっていますが、江戸期に埋め立てられる以前には、丸の内から有楽町、内幸町にかけては、神田川河口の入江が広がっていました。



千代田区の現在の地形

出典：「史跡 江戸城外濠跡保存管理計画書（平成20年3月 千代田区 港区 新宿区）」

## 1.2 千代田区の植生と土地利用

江戸開府以来、高度に都市化の進んだ千代田区では、皇居とその周辺を除くと、まとまりのある大きな緑地は社寺や公園などのわずかな場所に限られています。

環境省生物多様性センターが平成13年～平成23年にかけて調査・とりまとめた現存植生図（図1-1参照）を見ると、自然性の高い植生は、常緑広葉樹林（ヤブコウジースダジイ群集）が皇居吹上御苑にまとまって見られるほか、ヨシを主体とした水生植物群落（ヨシクラス）が皇居吹上御苑内の水辺にわずかに分布しています。

その他の大部分は植栽木で構成される樹木地で、まとまった面積の緑地は、江戸城とその歴史的遺構に由来する北の丸公園、皇居外苑及び外濠に集中しており、そのほか日比谷公園、日枝神社、靖国神社など、区内中央から南部、西部にかけての地域に偏っています。緑の多い住宅地など小面積の樹木地も、区内南部から西部にかけての市街地に多く分布しており、区内北東部には緑地が少ない状況です。

皇居を取り囲む周辺一帯はかつての江戸城外濠の内側に位置し、江戸時代には大名屋敷や旗本居住地といった武家地が広がっていたほか、今の神田駅、秋葉原駅周辺には町人地がありました。現在も当時の街並みの名残が道路や区画割の特徴として見られます。

南部の霞ヶ関・永田町一帯には、国会議事堂をはじめとして官公庁の庁舎など政治・行政の主要機能が集中し、東京駅に近い大手町、丸の内、有楽町や、飯田橋、駿河台周辺には大規模なオフィスビルが立ち並んでいます。

一方、紀尾井町から飯田橋に至る西部には比較的区割の大きな住宅地が、また神田駿河台・神保町から東神田に至る北部には大学や商業地などの賑わいが見られ、地域の特徴に応じた多様な都市景観が見られます。

### <用語>

植生：樹林や草地など、ある場所を覆っている植物の集団のことです。

**常緑広葉樹林**

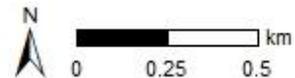
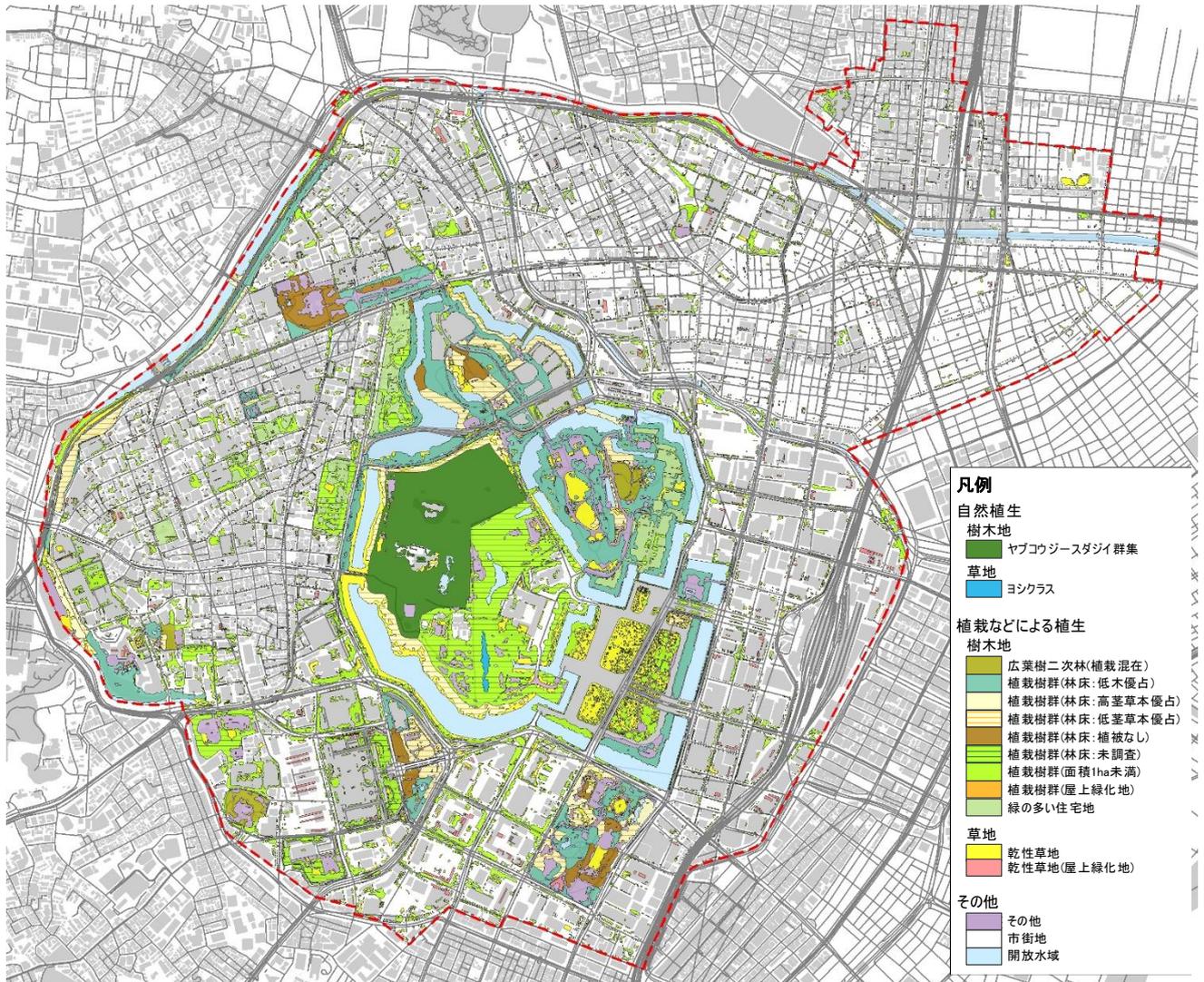


図1-1 千代田区の現存植生図

出典:「第6回・7回自然環境保全基礎調査植生調査(環境省)」より作成。



皇居吹上御苑の森



写真差し替え予定

外濠公園



日枝神社の樹林環境



日比谷公園の緑



神田駿河台の街並み



丸の内オフィス街の街路樹

### 1.3 千代田区の生物多様性

千代田区では、前回の推進プランの策定にあたって、区内の自然環境の現状を把握するため、区内にある代表的な自然環境を網羅的に調査しました。今回、推進プランの改定にあたって、区内の自然環境が最初の策定時と比較してどのように変化したか、また推進プランの取組みによって生物多様性がどの程度向上したのか、文献調査と自然環境調査を行いました。

ここでは、千代田区の自然環境の中心である皇居と区内の生物多様性・生きものの現状を紹介します。

#### (1) 皇居吹上御苑の自然（文献調査）

皇居吹上御苑は、江戸時代に徳川御三家の大名屋敷が建築され、その後は昭和の初めまで日本庭園として維持されてきました。この場所は、昭和12年に昭和天皇のご意向により自然のまま残すことになって以来、スダジイ、タブノキをはじめとする豊かな森が形成されています。

皇居吹上御苑では、これまでに専門家による生物調査が行われ、国立科学博物館専報にまとめられています。その結果、3,311種の昆虫類をはじめとして、都心部としては非常に多くの生物の生息・生育が明らかとなったほか、都内では稀な腐生植物のタシロラン、猛禽類のオオタカ、都内ではほぼ絶滅状態と考えられているベニイトトンボ、アオヤンマなどの希少な動植物の生息・生育も確認されています（表1-1）。

表1-1 皇居吹上御苑で記録された生物の概要（1/2）

分類群	種数	確認記録の概要	
植物	427	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆シダ植物 27 種、裸子植物 10 種、被子植物 390 種が確認されている。</li> <li>◆注目すべき植物として、常緑樹林内に極めて稀に生育する腐生植物の「タシロラン」が確認されている。</li> </ul>	
哺乳類	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本来の自然状態で生息している哺乳類は、アズマモグラとアブラコウモリの 2 種のみである。このほか、タヌキ、ハクビシン、アライグマが確認されている。</li> </ul>	 <p>タヌキ</p>

#### <用語>

腐生植物：光合成によって養分をつくるための葉緑素をもたず、根に共生する菌類から養分を得て生育する植物のことです。

表1-1 皇居吹上御苑で記録された生物の概要 (2/2)

分類群	種数	確認記録の概要
鳥類	82	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平成8年から平成17年までの10年間で、カワセミや、外来生物のホンセイインコなどを含む82種が確認されている。</li> <li>◆皇居では近年、猛禽類のオオタカがほぼ1年中確認されるようになってきているほか、秋から冬には同じく猛禽類のノスリが確認されている。</li> </ul>
		 <p>カワセミ</p>
爬虫類	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外来生物のミシシippアカミミガメを含むカメ目3種、カナヘビを含むトカゲ亜目3種、アオダイショウを含むヘビ亜目3種が確認されている。</li> <li>◆カナヘビは吹上御苑では個体数が非常に少ないと指摘されている。また、インガメが生き残っている可能性が示唆されている。</li> </ul>
両生類	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アズマヒキガエル、アマガエルのほか、外来生物法で特定外来生物に指定されているウシガエルが確認されている。</li> <li>◆皇居吹上御苑のカエル類は極端に数が少なく、その要因として、全ての水域や湿地などの水辺を占拠しているウシガエルの存在が指摘されている。</li> </ul>
魚類	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆在来種のギンブナやジュズカケハゼ、外来生物のカムルチーなどが確認されている。</li> <li>◆近年、濠が増えて問題になっているオオクチバスやブルーギルは吹上御苑内では確認されていない。</li> </ul>
底生動物 (エビ類・ 淡水産貝類)	エビ類 4, 淡水産 貝類13	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆エビ類：在来種のスジエビや、外来生物のアメリカザリガニなどが確認されている。</li> <li>◆淡水産貝類：都心部にはほとんど生息していないドブシジミ、マルタニシなどが確認されている。</li> <li>◆ドブシジミ、マルタニシ、モノアラガイ、トウキョウヒラマキガイは、かつて日本各地の溜め池や水田で普通に見られたが、現在では激減しており、都心部にはほとんど生息していない。</li> </ul>
		 <p>スジエビ</p>
昆虫類	3,311	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆トンボ目33種、バッタ目45種、チャタテムシ目23種、カメムシ目437種、アザミウマ目74種、アミメカゲロウ目29種、チョウ目803種、コウチュウ目738種、ハチ目513種、ネジレバナ目1種、ハエ目525種、トビムシ目74種、カマアシムシ目16種が確認されている。</li> <li>◆平成12年には、都内ではほぼ絶滅状態と考えられているベニイトトンボ、コサナエ、アオヤンマの生息が報告されている。その後、これら3種が全て皇居内で発生していることが確認され、個体数も多く生息していると報告されている。平成18年には、3種すべて皇居内での発生が確認され、個体数も多く、広く分布していると報告されている。</li> </ul>

出典：国立科学博物館専報第34～36号, 2000年

国立科学博物館専報第39号, 2005年  
国立科学博物館専報第43号, 2006年

<用語>

外来生物法：

特定外来生物：

## (2) 千代田区の生きものたち（自然環境調査）

千代田区内の生物多様性の状況を把握するため、令和4年度に現地調査を実施しました。調査概要および調査から明らかとなった千代田区の状況を紹介します。

### ① 調査概要

現地調査は、前回の推進プラン策定時の平成22年・23年度調査実施地点、14地点（①～⑭）の他、新たに⑮～⑰の緑地3地点を追加し実施しました。（図1-2、表1-3）

- ①日比谷公園
- ②国会前庭
- ③日枝神社
- ④清水谷公園
- ⑤ホテルニューオータニ
- ⑥外濠の緑道
- ⑦靖国神社
- ⑧錦華公園
- ⑨神田児童公園
- ⑩神田川
- ⑪日本橋川
- ⑫東郷元帥記念公園
- ⑬新見附濠・牛込濠
- ⑭弁慶濠
- ⑮大手町 JA ビル
- ⑯和泉公園
- ⑰練成公園



図1-2 現地調査地点の位置

<用語>

植生調査：

バイトラップ：

表1-2 現地調査の調査実施日

調査項目	調査方法	調査時期	調査日	調査時間帯	天候
植物相	任意観察	春季	令和4年5月10日	AM8時~PM17時	晴れ
			令和4年5月11日	AM8時~PM17時	晴れ
			令和4年5月12日	午前	曇り
			令和4年5月20日	午後	曇り
		夏季	令和4年7月26日	午前	雨
			令和4年7月27日	AM8時~PM17時	晴れ
			令和4年7月28日	AM8時~PM17時	晴れ
			令和4年7月29日	午後	晴れ
	任意観察 植生調査	秋季	令和4年10月3日	AM8時~PM17時	曇り
			令和4年10月4日	AM8時~PM17時	曇り
			令和4年10月5日	AM8時~PM17時	雨
			令和4年10月11日	午前	曇り
	哺乳・ 両生・爬虫類	任意観察	春季	令和4年4月15日	午後
任意観察 自動撮影カメラ設置 夜間コウモリ調査		秋季	令和4年10月3日	AM8時~PM17時 PM17時~PM20時	曇り
			令和4年10月4日	AM8時~PM17時 PM17時~PM20時	曇り
			令和4年10月5日	AM8時~PM17時	雨
鳥類	任意観察	春季	令和4年5月17日	AM7時~PM13時	曇りのち雨
			令和4年5月18日	AM7時~PM15時	晴れ
			令和4年5月30日	AM7時~PM13時	晴れ
		初夏	令和4年6月13日	AM8時~PM14時	晴れ
			令和4年6月14日	AM7時~AM11時	曇り
			令和4年6月20日	AM7時~PM13時	曇り
			令和4年6月21日	AM7時~PM13時	曇り
			令和4年6月22日	AM7時~PM14時	曇り
		秋季	令和4年10月3日	AM7時~PM14時	曇り
			令和4年10月4日	AM7時~PM13時	曇り
			令和4年10月5日	AM7時~PM14時	雨
		冬季	令和5年1月18日	AM7時~PM13時	曇り
			令和5年1月19日	AM7時~PM15時	晴れ
令和5年1月20日	AM7時~PM14時		晴れ		

<用語>

植物相：

任意観察：

## ② 自然環境調査の結果

### ア. 調査地点の環境の状況

日比谷公園は大きな緑地で草地や樹林、水域と様々な環境を有し、また皇居近くに位置していることから、今回（令和4年）の調査でも引き続き多くの重要種や一般種が確認されています。



日比谷公園

外濠の緑道では、定期的な草刈りにより良好な草地環境が引き続き維持されており、貴重な種が多く確認され、区部では珍しい草地性の植物が多く確認されています。そのことにより、草地性のチョウ類が確認されるなど、千代田区が誇れる生物多様性保全上重要な場所となっています。ただし、一部ではソメイヨシノの衰弱や枯損木の伐採により林床環境が変改しているところもあります。



外濠の緑道の良好な草地

靖国神社や日枝神社、ホテルニューオータニの斜面林では安定した良好な樹林環境が維持されています。



日枝神社の樹林

外濠は樹林や草地に隣接した規模の大きい水域であり、草地性の種や水鳥が引き続き確認されています。



弁慶濠

神田川や日本橋川は、主に三面護岸であり、植生はほぼありません。しかし、水鳥が確認されており、水鳥を支える重要な環境となっています。



神田川

一方、錦華公園や神田児童公園、今回（令和4年）の調査で新たに追加された大手町 JA ビルや和泉公園、練成公園などの規模の小さな緑地では重要種のみならず一般種も他の緑地と比べ種数が少なく、下層植生が乏しい状態でした。



和泉公園

<用語>

重要種：

林床環境：

三面護岸：

一般種：

下層植生：

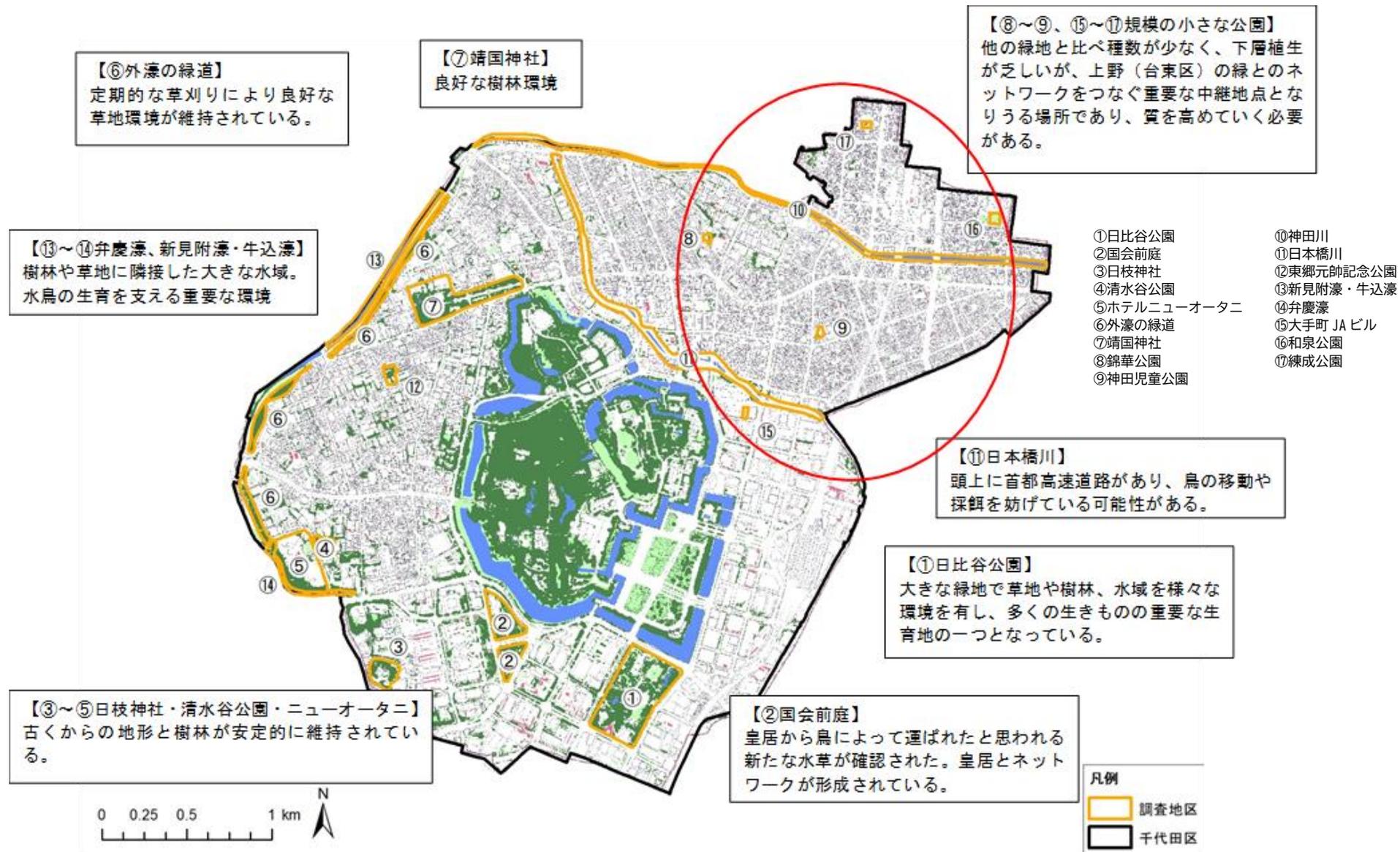


図1-3 令和4年の調査で分かった調査地点ごとの生態系の特徴

## イ. 植物の状況

自然環境調査で確認された種数：138科 683種

外濠の緑道沿いの斜面には定期的な下草刈りの実施により良好な草地環境が引き続き維持されています。ホテルニューオータニの斜面、清水谷公園、日枝神社などには古くからの地形と樹林が安定的に維持されており、希少な植物の生育も見られます。また、国会前庭の池において水草の重要種が新たに確認されました。植栽でない場合は、皇居の植物の趣旨が鳥散布により運ばれ、新たに生育したものと考えられます。

一方で、練成公園など市街地内の小規模な公園では他の緑地と較べて植物の種類が少ない状況です。また、ノハカタカラクサ、シマトネリコなど外来植物や生態系への影響が懸念される外来種が増加・新たに出現しています。鉢植えの植物が公園内に放棄されている状況も見られます。



外濠の緑道



ホテルニューオータニの斜面



国会前庭で確認された  
ホザキノフサモ

<用語>

鳥散布：

在来植物：

#### ウ. 哺乳類・両生類・爬虫類の状況

**自然環境調査で確認された種数：哺乳類は2種、両生類は1種、爬虫類は7種**

哺乳類では、前回（平成22年・23年）の調査で確認されたタヌキは、今回（令和4年）の調査では確認されていませんが、緑地に大きな変化がないことや、東京都の都市圏へ分布が拡大する傾向にあることから、現在も調査地区内を利用している可能性があります。

両生類については、アズマヒキガエルの調査地区内での繁殖地の数は前回（平成22年・23年）の調査から減少しましたが、日比谷公園では前回（平成22年・23年）の調査と同じく、幼生が確認されており、生息状況は安定しています。



日比谷公園のアズマヒキガエル

爬虫類については、草地在維持されている外濠の緑道や国会前庭の斜面地、安定した樹林を形成している日枝神社で、重要種のヒガシニホントカゲの生息環境が良好に維持されていることが確認できました。また、ホテルニューオータニの斜面林は落ち葉の堆積した湿った土壌となっており、重要種のヒバカリの生息に適した環境が維持されています。

<用語>

幼生：

## 工. 鳥類の状況

自然環境調査で確認された種数：27科50種

今回（令和4年）の調査では前回（平成22年・23年）の調査で確認されたヒドリガモ、オナガガモ、ノスリ、ハシボソガラス、イワツバメ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、シロハラ、ルリビタキ、コサメビタキ、キビタキ、ビンズイの12種が確認されませんでした。このうちエゾムシクイ、センダイムシクイ、コサメビタキは渡りの時期の短期間しか確認されないため、今回の調査で確認できなかった可能性があります。また、イワツバメは近年、個体数が減少傾向にあることが明らかになっています。

今回（令和4年）の調査ではヨシガモ、ホシハジロ、チュウサギ、オオバン、イソシギ、ハイタカ、オオタカ、チョウゲンボウ、イソヒヨドリ、エゾビタキの10種が新たに確認されました。このうちオオタカ、チョウゲンボウ、イソヒヨドリは近年、都市部でも確認されるようになったことが影響したと考えられます。



ホシハジロ



イソシギ



イソヒヨドリ

<用語>

鳥の渡り：

## オ. 昆虫類の状況

自然環境調査で確認された種数：163科 609種

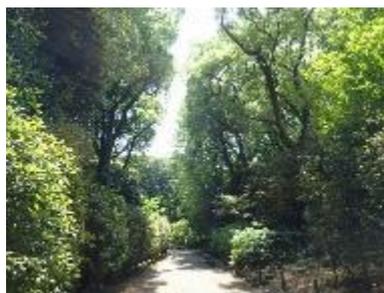
外濠の緑道沿いの斜面では、草刈りにより良好な草地環境が維持されており、シヨウリョウバツタモドキやヒメウラナミジャノメが前回（平成22年・23年）の調査と同じく確認されました。また、ホテルニューオータニと弁慶濠にまたがる緑地や靖国神社、日枝神社、外濠緑道では樹林が維持されてきたことにより、大径木を利用する種や移動性の低い樹林性の種が見られます。

一方で、市街地の小規模な緑地では他の緑地と比べて昆虫類が少なく、なかでも神田児童公園や大手町 JA ビルの屋上緑地のように下層植生が乏しい場所では特に少ない状況でした。

また、近年に分布拡大や侵入が確認された外来種のカメムシ類を新たに確認しました。その他、特定外来生物のアカボシゴマダラが確認された地点数が増加し、本種がより普通に見られるようになってきていることが窺われます。それ以外にも、近年の昆虫類の分布状況の変化を反映した結果となりました。



ヒメウラナミジャノメ



靖国神社の樹林

<用語>

径木：

下層植生：

## カ. 魚類の状況

### 自然環境調査で確認された種数：7科15種

今回（令和4年）の調査ではゲンゴロウブナ、ギンブナ、ドジョウ、ナマズ、オクチバス（ブラックバス）、ボラ、マルタ、スミウキゴリは確認されていませんが、前回（平成22年・23年）の調査で確認された場所である、外濠（弁慶濠）や日本橋川などの環境に大きな変化がみられないことから、現在も生息しているものと考えられます。

外濠や清水谷公園、日比谷公園の池などの安定した生息環境が維持されている池では、モツゴ、メダカ類、トウヨシノボリ類が確認されています。

一方で、外来種のブルーギルは日本橋川でも確認され、確認される地点が増えていることから、今後の動向に注意が必要です。



トウヨシノボリ類



清水谷公園の池

## キ. 底生動物の状況

自然環境調査で確認された種数：2科57種

今回（令和4年）の調査ではミズクラゲ、コウロエンカワヒバリガイ、ゴカイ類、フジツボ類といった主に海域や汽水域などに生息する種が確認されていませんが、前回（平成22年・23年）の調査で確認された神田川や日本橋川の環境に大きな変化がみられないことから、現在も生息しているものと考えられます。

今回（令和4年）の調査の各調査地点別の種数は、前回（平成22年・23年）の調査と比較して、日比谷公園、日本橋川、外濠（新見附濠・牛込濠、弁慶濠）で減少しました。清水谷公園、錦華公園、神田川、日本橋川は概ね同等の結果でしたが、外来種であるヌマエビ科の *Neocaridina* 属やトガリアメンボが新たに確認されており、*Neocaridina* 属は確認される地点が増えていることから、今後の動向に注意が必要です。



Neocaridina 属

<用語>

汽水域：

## ク. 希少種の状況

外濠の緑道では定期的な草刈りなどにより生育環境が引き続き維持されており、ヒトツバハギやヒメウラナミジャノメなどが前回同様確認されました。

水辺では、都市公園内の規模の大きな水域や、樹林が接する外濠などのお濠は、オオバン、チュウサギ、イソシギなどの水鳥が確認されており、都市においては希少な水鳥の生息を支える重要な環境となっています。また、公園などの緑地に担保されているまとまった止水環境はオオアメンボが新たに確認されるなど水生昆虫の生息の場として貴重な存在となっています。

日比谷公園は大きな緑地や草地や樹林、水域と様々な環境があること、また皇居近くに位置していることから、皇居から飛来していると考えられるコサナエが新たに確認されるなど、過年度から引き続き多くの重要種の生息が確認されました。

一方で、規模の小さい公園などでは重要種は過年度から変わらずほとんど確認されていません。



外濠（牛込濠）の水域



日比谷公園の水域

<用語>

止水環境：

【調査結果（重要種比較一覧）】

No.	項目	種名	調査地点														合計	備考			
			① 日比谷公園	② 国会前庭	③ 日枝神社	④ 清水谷公園	⑤ ニューホテル オートタニ	⑥ 外濠の緑道	⑦ 靖国神社	⑧ 錦華公園	⑨ 神田児童公園	⑩ 神田川	⑪ 日本橋川	⑫ 東郷元帥記念公園	⑬ 牛込新見附濠	⑭ 弁慶濠			⑮ 大手町Jビル	⑯ 和泉公園	⑰ 練成公園
1	植物相	コヒロハハナヤスリ						新												1(+1)	
2		マツバラシ	新																	1(+1)	
3		アスカイノデ			新		新	新												3(+3)	
4		ウミノスズクサ						継												1	
5		ツツイトモ		新																1(+1)	
6		ギンラン					新													1(+1)	
7		ノカンゾウ	未					継												1(-1)	注2
8		マコモ												継						1	注1
9		キクマン	継																	1	
10		カザグルマ												継						1	
11		ホザキノフサモ		新											継					2(+1)	注2
12		ヒトツバハギ						継												1	注2
13		フタバムグラ		新																1	
14		カワヂシャ	継																	1	
	合計	14種(+6)	3	3(+3)	1(+1)	0	2(+2)	3	2(+2)	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	-	-
1	哺乳類	アズマヒキガエル	継		未	未	未	未	未				未	未	未					1(-9)	
2	両生類	クサガメ	未											新						0(-1)	注1
3	爬虫類	ニホンスッポン	継												新					2(+1)	
4		ニホンヤモリ	継	継	未	継		継	継	新			未	未			新			7(-1)	
5		ヒガシニホントカゲ		継	新			継												3	
6		アオダイショウ	新		新		新		新											4(+4)	
7		ヒバカリ					新													1(+1)	
	合計	7種(+2)	4	2	2	1(-1)	2(+1)	2(-1)	2	0(-1)	1(+1)	0	0	1(-2)	1(-2)	1	0	1(+1)	0	-	-

※「未」：平成23年度に確認されたが、今年度（令和4年）調査では確認されていない種  
 「新」：平成23年度に確認されなかったが、今年度（令和4年）調査で新たに確認された種  
 「継」：平成23年度、今年度（令和4年）調査両方で確認された種

※グレーの網掛けは調査未実施地点

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、平成23年度との差を（）で示した。

※「注1」：平成23年度は重要種に該当するが、今年度（令和4年）は重要種に該当しない種  
 「注2」：平成23年度は重要種に該当しないが、今年度（令和4年）は重要種に該当する種

※平成23年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※令和4年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）（令和2年）

No.	項目	種名	調査地点														合計	備考			
			①日比谷公園	②国会前庭	③日枝神社	④清水谷公園	⑤ホテルニューオータニ	⑥外濠の緑道	⑦靖国神社	⑧錦華公園	⑨神田児童公園	⑩神田川	⑪日本橋川	⑫東郷元帥記念公園	⑬新見附濠・牛込濠	⑭弁慶濠			⑮大手町JABビル	⑯和泉公園	⑰練成公園
1	鳥類	ヨシガモ					新								新				2(+2)		
2		ホシハジロ									新			新					2(+2)	注2	
3		カイツブリ												継					1		
4		ゴイサギ									未		継	未					1(-2)	注2	
5		ダイサギ	新				未			新	未		継	継					4		
6		チュウサギ	新																1(+1)		
7		コサギ				新				新	継		継	未					4(+1)		
8		オオバン								新	新		新						3(+3)		
9		ヒメアマツバメ	未						未					新					1(-1)		
10		イソシギ									新	新							2(+2)		
11		ウミネコ									継								1	注2	
12		ハイタカ	新						新										2(+2)		
13		オオタカ	新																1(+1)		
14		ノスリ		未				未											0(-2)		
15		カワセミ	未	未			未							新	継				2(-2)		
16		チョウゲンボウ					新												1(+1)		
17		モズ	未	継				未							未				1(-3)		
18		オナガ	継	未				継	新		新		新				新		6(+3)	注2	
19		ヤマガラ	継	未	未	未	継		継	継									4(-3)		
20		インヒョドリ									新								1(+1)		
21		コサメビタキ	未	未					未										0(-3)		
	合計	19種(+7)	6	1(-5)	0(-1)	2	2(+1)	1(-3)	3	1	0	8(+7)	3	1(+1)	7(+3)	4(-1)	0	1(+1)	0	-	-
1	昆虫類	ホソミオツネトンボ	未																	0(-1)	
2		コサナエ	新																	1(+1)	
3		チョウトンボ	未					新								新				2(+1)	
4		クマズムシ														未				0(-1)	注1
5		ショウリョウバッタモドキ						継												1	注1
6		リンゴクロカスミカメ	未					未												0(-2)	
7		オオアメンボ					新		新											2(+2)	
8		ヒカゲチョウ	継																	1	注2
9		ヒメウラナミジヤノメ					新	継								継				3(+1)	注2
10		オオミズアオ本土亜種							新											1(+1)	
11		ウバタマムシ						新												1(+1)	
12		タマムシ					新	新	新											3(+3)	
13		クズハキリバチ														継				1	注2
	合計	10種(+2)	2(-2)	0	1(+1)	1(+1)	1(+1)	5(+2)	3(+3)	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	-	-

※「未」：平成23年度に確認されたが、今年度（令和4年）調査では確認されていない種  
 「新」：平成23年度に確認されなかったが、今年度（令和4年）調査で新たに確認された種  
 「継」：平成23年度、今年度（令和4年）調査両方で確認された種

※グレーの網掛けは調査未実施地点

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、2011年度との差を（）で示した。

※「注1」：平成23年度は重要種に該当するが、今年度（令和4年）は重要種に該当しない種

「注2」：平成23年度は重要種に該当しないが、今年度（令和4年）は重要種に該当する種

※平成23年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※令和4年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）

・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）  
（令和2年）

No.	項目	種名	調査地点														合計	備考					
			①日比谷公園	②国会前庭	③日枝神社	④清水谷公園	⑤ニューオータニホテル	⑥外濠の緑道	⑦靖国神社	⑧錦華公園	⑨神田児童公園	⑩神田川	⑪日本橋川	⑫東郷元帥記念公園	⑬新見附濠・牛込濠	⑭弁慶濠			⑮大手町Jビル	⑯和泉公園	⑰練成公園		
1	魚類	マルタ													未						0(-1)		
2		ナマズ															未					0(-1)	
3		ミナミメダカ	継			新																2(+1)	
4		ヌマチチブ												新								1(+1)	
5		アベハゼ									新											1(+1)	
6		トウヨシノボリ類	継			新								未	継							3	注2
7		ウキゴリ												継								1	注2
	合計	5種	2	0	0	2(+2)	0	0	0	0	0	1(+1)	0(-1)	0	2	1(-1)	0	0	0	0	-	-	
1	底生	オオタニシ														未						0(-1)	
2		テナガエビ	継										未	継	継							3(-1)	
3		スジエビ	継			継						新	継	継								5(+1)	
4		サワガニ													未							0(-1)	
5		モクズガニ											新	継								2(+1)	
6		ハグロトンボ											未									0(-1)	
7		ババアメンボ														未						0(-1)	
8		ハネナシアメンボ														未						0(-1)	
	合計	3種(-5)	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3	2(-4)	0	0	0	0	-	-	-	
	全項目合計	58種(+12)	19(-2)	6(-2)	4(+1)	7(+2)	7(+5)	11(-2)	10(+5)	1(-1)	1(+1)	9(+8)	5(-1)	1(-1)	15(+1)	12(-6)	0	2(+2)	0	-	-	-	

※「未」：平成23年度に確認されたが、今年度（令和4年）調査では確認されていない種

「新」：平成23年度に確認されなかったが、今年度（令和4年）調査で新たに確認された種

「継」：平成23年度、今年度（令和4年）調査両方で確認された種

※グレーの網掛けは調査未実施地点

※合計種数は今年度調査で確認された種数とし、平成23年度との差を（）で示した。

※「注1」：平成23年度は重要種に該当するが、今年度（令和4年）は重要種に該当しない種

「注2」：平成23年度は重要種に該当しないが、今年度（令和4年）は重要種に該当する種

※平成23年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて（環境省 平成19年8月3日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～（区部）（東京都 平成22年）

※令和4年度の重要種選定基準

- ・文化財保護法（昭和25年5月30日 法律第214号）
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年6月5日 法律第75号）
- ・環境省報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について（令和2年3月27日）
- ・東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト（本土部）2020年版～（区部）（令和2年）

#### ケ. 外来生物の状況

今回（令和4年）の調査では、これまで確認されていたオオクチバスやミシシippアカミミガメなどの外来生物のほか、特定外来生物ではありませんが、植栽樹木としてよく利用されるシマトネリコの実生が複数の調査地点で確認されました。シマトネリコは鳥散布によって種子が運ばれることから、今後侵入の状況を注視していく必要があります。また、すでに分布が拡大してしまった外来植物をすべて駆除することは困難であることから、今後植栽を行う際には、植栽時における在来種ガイドライン～生物多様性に配慮した植栽を目指して（東京都環境局、平成26）に従った植栽を行うことが望ましいです。

表1-3 区内で確認された駆除、対策が必要と考えられる外来種

項目	種	今回（令和4年度） 調査確認地点	前回（平成24 年度） 調査確認地点	概要	備考
植物	トウネズミモチ	全地点	全地点	生態系被害防止外来種 【対策案】 逸出も多い。広がらないようにできるだけ逸出した個体を抜き取ることが望ましい。植栽されている場合は、果実を食べた鳥類がフンを落とすことにより広範囲に趣旨散布されてしまうため、伐採することが望ましい。	
	シュロ	①日比谷公園、②国会前庭、③日枝神社、④清水谷公園、⑤ホテルニューオータニ、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社、⑧錦華公園、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠、⑯和泉公園（計11地点）	全地点	生態系被害防止外来種 【対策案】 逸出も多い。トウネズミモチと同様、広がらないようにできるだけ逸出した個体を抜き取り、大きくなった物は伐採も検討する必要がある。	
	ノハカタカクサ	①日比谷公園、③日枝神社、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社、⑬新見附濠・牛込濠（計5地点）	①日比谷公園、③日枝神社、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社（計4地点）	生態系被害防止外来種 【想定される被害】 いずれの調査地区でも林床にマット状に広がっており、在来種を被圧してしまう可能性が考えられる。 【対策案】 除草や、現在生育している場所から分布を拡大させないことが必要。除草を行う際、不用意に引き抜くと葡萄茎や無性芽が残るため注意が必要。	文献1
	アメリカハナノキ	②国会前庭	②国会前庭	生態系被害防止外来種（定着予防外来種） 【対策案】 周囲への逸出は確認していないが、新たに植栽することは控えた方がよい種と考えられる。	
	ツルドクダミ	①日比谷公園、②国会前庭、③日枝神社、④清水谷公園、⑤ホテルニューオータニ、⑥外濠の緑道、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計8地点）	①日比谷公園、②国会前庭、③日枝神社、④清水谷公園、⑥外濠の緑道、⑭弁慶濠（計6地点）	生態系被害防止外来種 【対策案】 平成24年度調査より確認数・確認範囲が増加しており、見つけたら抜き取りを行うことが望ましい。	

項目	種	今回（令和4年度） 調査確認地点	前回（平成24年 度） 調査確認地点	概要	備考
植物	メリケンカル カヤ	①日比谷公園、②国会前 庭、④清水谷公園、⑤ホ テルニューオータニ、⑫ 東郷元帥記念公園、⑬新 見附濠・牛込濠（計6地 点）	②国会前庭、③ 清水谷公園（計 2地点）	生態系被害防止外来種 【対策案】 風散布の種子で広がりや すいため、選択的な除草 が必要である。ホテルニ ューオータニの屋上にも 生育していた。屋上庭園 などにも広がりやすいた め、注意が必要である。	
	シマトネリコ	①日比谷公園、③日枝神 社、④清水谷公園、⑤ホ テルニューオータニ、⑦ 靖国神社、⑬新見附濠・ 牛込濠（計6地点）	なし	【想定される被害】 沖縄原産の国内外来種で あり、近年植栽として多 く利用されており、植え 込みや道路際の際間など に自生する事例がしばし ば確認されている。今回 調査地内において実生に よる分布拡大も確認され た。トウネズミモチのよ うに都市林などに侵入す るほか、暖地性昆虫の分 布拡大などに影響を与え る恐れも考えられる。	文献 2
	ノウゼンカズ ラ	①日比谷公園、④清水谷 公園（計2地点）	③日枝神社、⑧ 錦華公園、⑬新 見附濠・牛込 濠、⑭弁慶濠 （計4地点）	【想定される被害】 逸出個体を清水谷公園で 確認した。庭に植栽され ることも多いため、今後 分布を広げる可能性がある。 周囲に地下茎を伸ば して広がり、つるを伸ば して這い上がる。一度広 がってしまうと駆除が難 しい種である。	
	キンゴジカ	⑫東郷元帥記念公園	なし	【対策案】 結実も確認。分布が周囲 の緑地に広がらないよ うに駆除が必要である。	
	フシネキンエ ノコロ	②国会前庭	なし	【想定される被害】 国会前庭の北庭東側の法 面草地で確認した。在来 のコツブキンエノコロに 似ており、選択的除草も 識別できる人でないと難 しいため、今後分布が拡 大する可能性がある。	

項目	種	今回（令和4年度）調査確認地点	前回（平成24年度）調査確認地点	概要	備考
爬虫類	ミシシッピアカミミガメ	①日比谷公園、④清水谷公園、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計4地点）	①日比谷公園、⑬新見附濠・牛込濠、⑭弁慶濠（計3地点）	条件付き特定外来生物 【想定される被害】 水生植物や魚類、両生類、甲殻類等の生態系への被害が生じる。水生植物が減少することにより、底質の土の流出や水質汚濁等が生じ、景観や生態系に二次的影響が生じることも懸念されている。※令和5年6月1日に「条件付き特定外来生物」（通称）になる予定。 また、ミシシッピアカミミガメを駆除する際、クサガメも捕獲できることから、作業効率的にも併せて駆除を行うと効率的である。	文献3
昆虫	プラタナスグンバイ	①日比谷公園、⑥外濠の緑道、⑦靖国神社（計3地点）	①日比谷公園、②国会前庭、⑤ホテルニューオータニ、⑥外濠の緑道（計4地点）	【想定される被害】 プラタナスグンバイはプラタナス、クスベニヒラカスミカメはクスノキを食草とする。 全国的に害が発生しており、吸汁することにより葉の表面が茶色に脱色し、葉の裏は排泄物により汚れる。規制が著しいと樹幹全体につき美観が著しく損なわれる。枯死することはないが、樹勢低下の懸念がある。プラタナスに隣接した住宅のテラスに干した洗濯物や装飾店の商品に飛来し、付着するため不快害虫ともなっている。	文献4
	クスベニヒラカスミカメ	②国会前庭、③日枝神社、②東郷元帥記念公園、⑭弁慶濠、⑰練成公園（計5地点）	なし	【対策案】 定期的に被害状況を把握し、被害が著しい場合は、葉の散布による駆除を行うことが望ましい。葉の散布にあたっては、農薬の飛翔に十分注意する。	
底生動物	ヌマエビ科のNeocaridina属	①日比谷公園、④清水谷公園、⑩神田川、⑪日本橋川（計4地点）	⑪日本橋川	【想定される被害】 ミナミヌマエビの名称で、外国産の同属種が飼育鑑賞目的で販売されており、日本各地に分布を広げている。本種の増加により、ヌカエビ等の在来種が生息環境等の競合による影響が懸念されている。駆除事例や対策はなく、近年ますます分布拡大の傾向にある。	

項目	種	今回（令和4年度）モニタリング確認地点	前回（平成24年度）調査確認地点	概要	備考
魚類	オオクチバス	なし	①日比谷公園、 ⑭弁慶濠	特定外来生物 【想定される被害】 弁慶濠ではオオクチバスが生息しているものと思われる。弁慶濠は釣り堀としての利用があり、調査中にもオオクチバスを対象としていると考えられる遊漁者がみられている。一方で、大手濠や桔梗濠等の内濠では環境省主体によるオオクチバス等外来生物の駆除が積極的に行われており、対応に矛盾を感じる。	

文献1：あいちの外来種移入種対策ハンドブック HP (<https://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/search>)

文献2：中野敬一. 2015. 都市有害生物管理 5(1)15-16pp. 緑化樹シマトネリコの生態影響について

文献3：環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室. 2019. アカミミガメ防除の手引き（令和3（2021）年8月改訂）

文献4：平成19年度病虫害発生予察特殊報第3号（福島県、平成19年10月）

## 2 生物多様性に関する千代田区民の意識（アンケート調査）

生物多様性についての区民意識および区事業への参加状況等について把握するため、アンケート調査を行いました。ここでは、調査結果から推進プランの取組みに反映すべき項目について述べます。

### 2.1 区政モニターアンケート（令和4年実施）

調査内容	「生物多様性」について
調査機関	令和4年6月28日～7月15日
調査対象	区政モニター（100名）
回答数	88名（回収率88%）

<対象者及び回答者の年齢別の内訳>

年代	対象者数	回答者数
10歳代	0名	(0名)
20歳代	10名	(8名)
30歳代	22名	(20名)
40歳代	24名	(23名)
50歳代	25名	(21名)
60歳代	14名	(11名)
70歳代	4名	(4名)
80歳代	1名	(1名)
合計	100名	(88名)

<在住・在勤・在学の内訳>

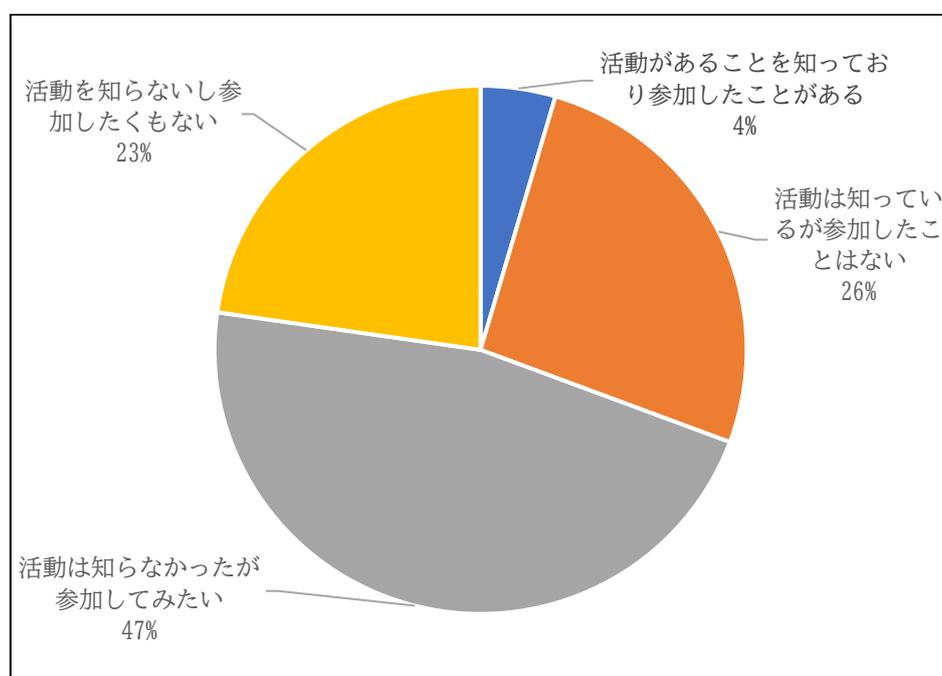
区分	対象者数	回答者数
在住	83名	(73名)
在勤	16名	(14名)
在学	1名	(1名)
合計	100名	(88名)

(1) 「生物多様性」に関連する情報や取組みの認知度

◇「生物多様性」の言葉の認知度は高いものの、回答者が取組みやその成果を実感できていない

Q11 あなたは、区内の緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。

項目	回答数	割合
活動があることを知っており参加したことがある	4	4%
活動は知っているが参加したことはない	23	26%
活動は知らなかったが参加してみたい	41	47%
活動を知らないし参加したくもない	20	23%



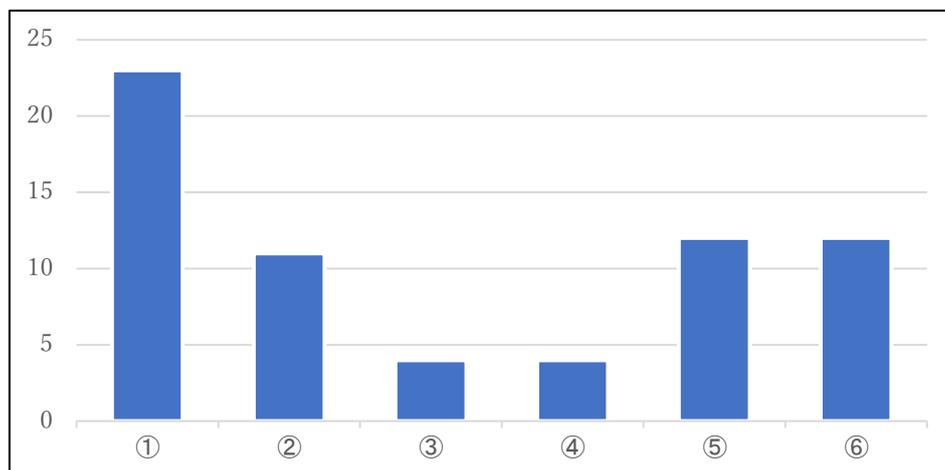
「生物多様性」に関連する情報（生きものの情報）や取組み（取組みの場・保全活動に参加するきっかけとなる情報）の発信の強化が重要

(2) 「生物多様性」に関連する取組みへの意欲

◇「時間的制約」「取組みや活動の周知不足」が原因となった参加意欲の低さが見られる。

Q5-2 (Q5「あなたは『千代田区生きものさがし』をご存じですか。また、参加したことがありますか。」で知っているが参加したことはない・知らなかったし今後も参加しようと思わないと答えた方に伺います。) 参加したことがない・参加しない理由は何ですか。(複数回答可)

項目	回答数
①忙しくて時間がない	23
②生きものが苦手である	11
③生きものさがしに興味がない	4
④面倒である	4
⑤生きものさがしの内容がよくわからない	12
⑥その他	12



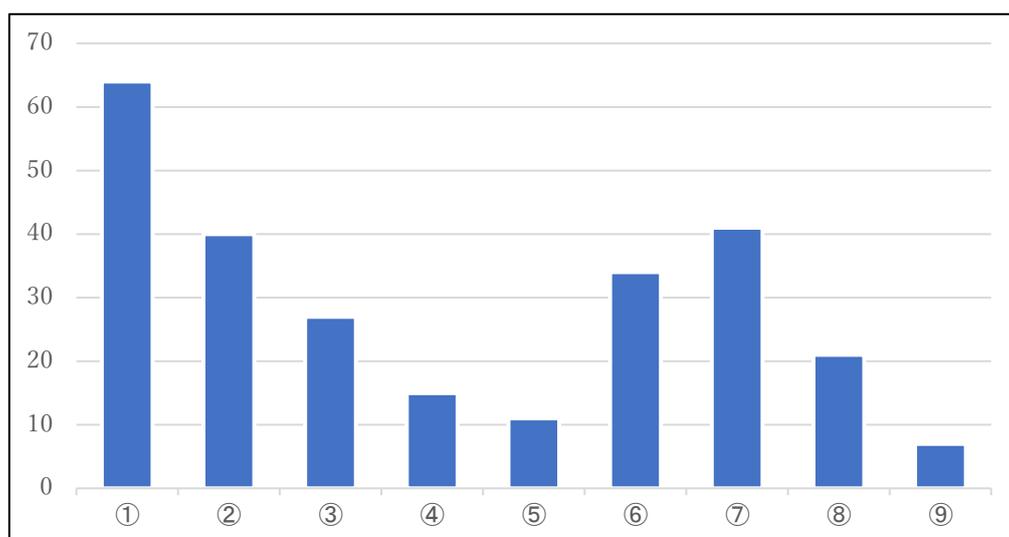
身近な環境や日々の暮らしの中から始められるアイデアの積極的な情報提供やIT技術等を活用した取組みへの参加の促進強化が重要

(3) 「生物多様性」に関連する情報の周知

◇「区の広報紙」や「町内会での配布物」での情報提供が必要の回答が多く、特に区民向けには有効である。

Q8 あなたは、区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取組み・活動など）は、どのような媒体による周知が理想的と考えますか。（複数回答可）

項目	回答数
①区の広報紙	64
②区のホームページ	40
③学校からの配布物	27
④企業や民間団体等のイベント	15
⑤企業や民間団体等のホームページ	11
⑥公共施設での展示・配布物	34
⑦SNS	41
⑧テレビ・ラジオ・新聞・図書	21
⑨その他	7



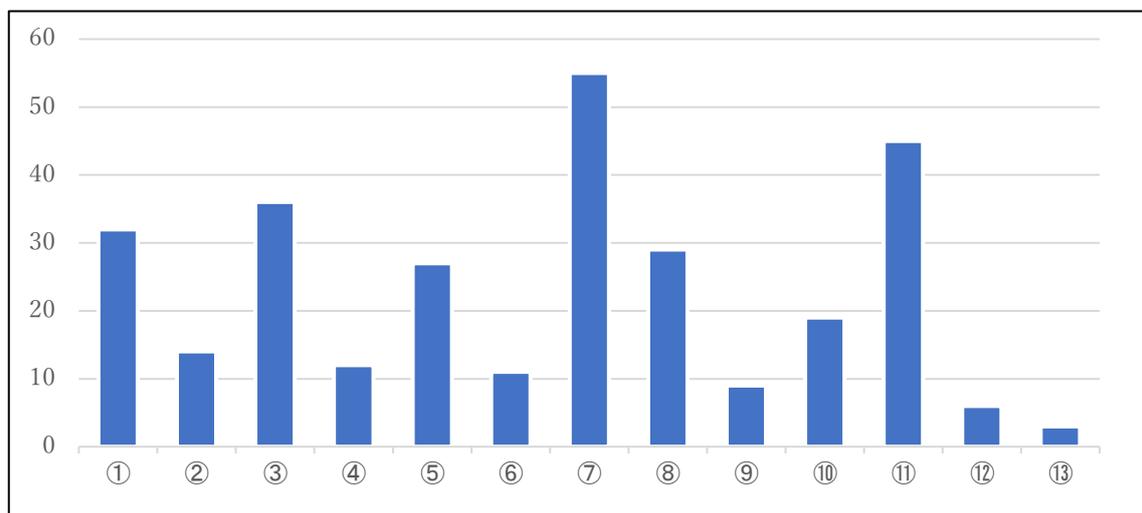
公共施設での情報提供及び紙媒体を含む効果的な情報提供の継続

(4) 「生物多様性」保全に関わる自身の取組みについて

◇生物多様性の保全に関わる自身の取組みとして、節水や節電、地産地消、水質浄化など、生活環境・暮らしに関わる事項に関心が高い。

Q16 生物多様性保全のために、普段の生活の中で取り組んでいる・心がけている活動をお答えください。(複数回答可)

項目	回答数
①身近な生きものの観察や、外に出て積極的に自然と触れ合う	32
②自然観察会、緑地等の整備活動に参加する	14
③洗濯や食器洗いの際、洗剤の使用量を減らすなどして、河川・堀等の水質への影響を考え行動する	36
④公園や河川等の清掃活動に参加する	12
⑤生きものをペットとして飼ったり、植物を育てるときは責任を持って行い、野外に放逐したり捨てたりしないようにする	27
⑥環境教育などで学んだ内容を周囲の人と共有し合う	11
⑦節電や適切な冷暖房の設定など地球温暖化対策に取り組む	55
⑧エコマークやFSC認証などのついた製造・販売・廃棄過程で環境負荷の少ない製品・食品・メーカーを選んで購入する	29
⑨自然の素晴らしさを写真・絵・文章などで伝える	9
⑩家庭菜園、屋上菜園などを通じて自然に親しむ	19
⑪旬のもの、地元のものを選んで購入する	45
⑫特になし	6
⑬その他	3



※太字は回答数の多い項目

**暮らしや経済活動・家計に直結する分野と生物多様性の関わりを再認識する  
取組みの強化**

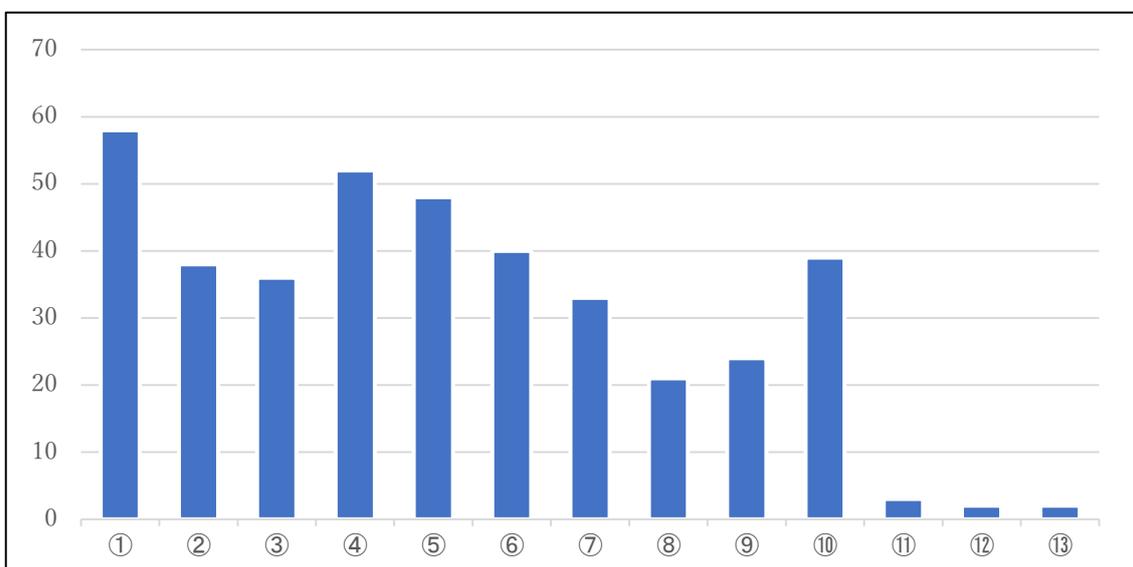
(5) 「生物多様性」保全に関わる自身の取組みについて

◇自らが行動する際に必要な情報として「生きものに関する一般的な知識」「外来生物」「希少な生きものやその生息環境等の情報」の回答が多い。

Q17 あなたは、自然環境や生きもののことを考えて行動していく際に、どのような情報が必要だと思いますか。(複数回答可)

項目	回答数
①自然や動植物などの生きものに関する一般的な知識	58
②区内の自然環境の保全活動や美化活動、ボランティア活動等の情報	38
③区内の自然観察やエコツアーリズム等の情報	36
④区内の在来の生きものに影響を及ぼしている外来の生きものに関する情報	52
⑤絶滅のおそれのある区内の希少な野生動植物の現状やそれらの生息環境等の情報	48
⑥地球温暖化や食糧生産の拡大等に伴う世界の自然環境の悪化に関する情報	40
⑦動植物などの生きものを大切に世話したり、扱ったりするための情報	33
⑧FSC 認証を受けた商品など、環境に配慮した商品を購入するための情報	21
⑨ガーデニングや家庭菜園等の身近な緑化に関する情報	24
⑩旬の食材や、地元産の農畜水産物に関する情報	39
⑪わからない	3
⑫特になし	2
⑬その他	2

※太字は回答数の多い項目



「生きもの・生態系ネットワーク」や「自然ふれあいの場・機会」の情報整備・管理・運用の強化

## 2.2 区民世論調査アンケート（令和4年実施）

調査地域	千代田区全域
調査対象	千代田区在住の満18歳以上の男女
標本数及び抽出方法	2,000 (住民基本台帳から層化無作為抽出)
調査方法	[配布] 郵送配布 [回収] 郵送回収またはインターネット回答
調査期間	令和4年9月26日～10月17日
回収結果	有効回収数 856 (42.8%) 郵送回収 525 (61.3%) インターネット回答 331 (38.7%)

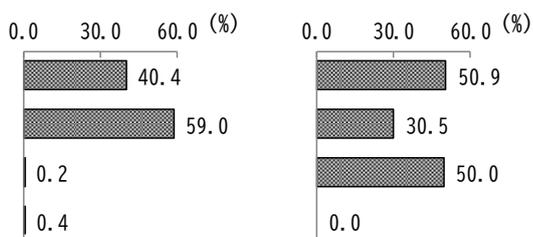
### <千代田区世論調査 回答者属性>

#### ●性別

	母集団	母集団 構成比	基数	構成比
男性	28,508	50.0%	346 (176)	40.4%
女性	28,514	50.0%	505 (154)	59.0%
どちらともいえない	-	-	2 (1)	0.2%
無回答	-	-	3 (0)	0.4%
合計	57,022	100.0%	856 (331)	100.0%

※下段（ ）内は、インターネット回答数内数

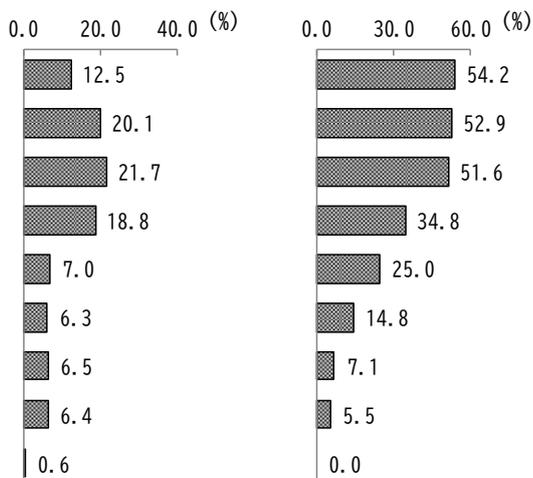
#### 基数（有効回収数）のうち インターネット回答数の割合



#### ●年代別

	母集団	母集団 構成比	基数	構成比
18～29歳	9,844	17.3%	107 (58)	12.5%
30歳代	11,323	19.9%	172 (91)	20.1%
40歳代	12,025	21.1%	186 (96)	21.7%
50歳代	9,460	16.6%	161 (56)	18.8%
60～64歳	3,094	5.4%	60 (15)	7.0%
65～69歳	2,383	4.2%	54 (8)	6.3%
70～74歳	2,687	4.7%	56 (4)	6.5%
75歳以上	6,206	10.9%	55 (3)	6.4%
無回答	-	-	5 (0)	0.6%
合計	57,022	100.0%	856 (331)	100.0%

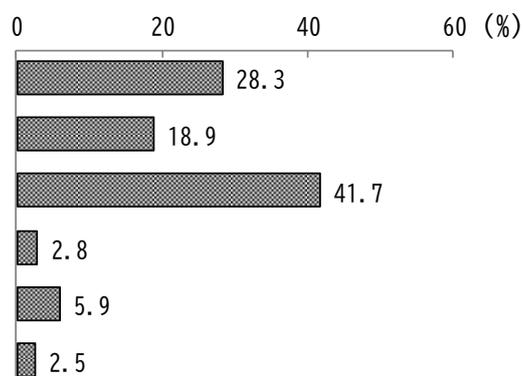
#### 基数（有効回収数）のうち インターネット回答数の割合



●在学・在勤先別

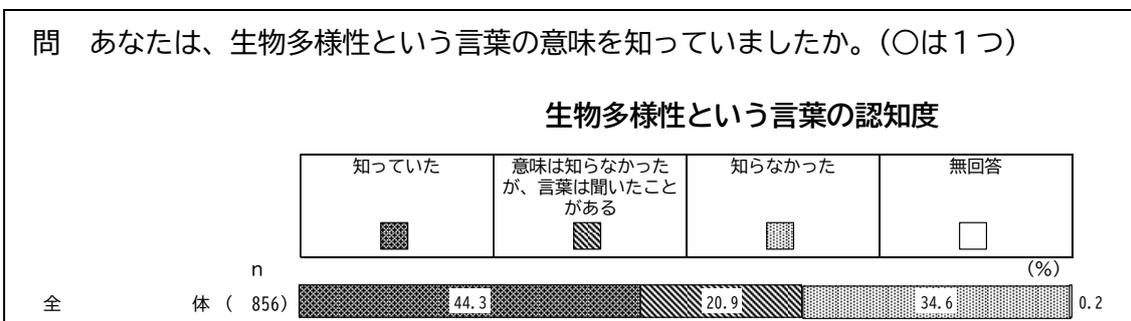
基数（有効回収数）のうち  
インターネット回答数の割合

	基数	構成比
千代田区内（居住地区と同じ地区）	192	28.3%
千代田区内（居住地区と異なる地区）	128	18.9%
東京23区内	283	41.7%
東京23区外	19	2.8%
東京都外	40	5.9%
無回答	17	2.5%
合計	679	100.0%



(1) 生物多様性という言葉の認知度

◇「知っていた」が4割台半ば近く



生物多様性という言葉の認知度について聞いたところ、「知っていた」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで「知らなかった」(34.6%)が3割台半ば近く、「意味は知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(20.9%)が約2割となっている。

年代・性別では、「知っていた」方の割合は男性18～29歳(61.1%)で6割強と高い。

「知らなかった」方の割合は男性75歳以上、女性60～64歳(50.0%)で5割と高い。

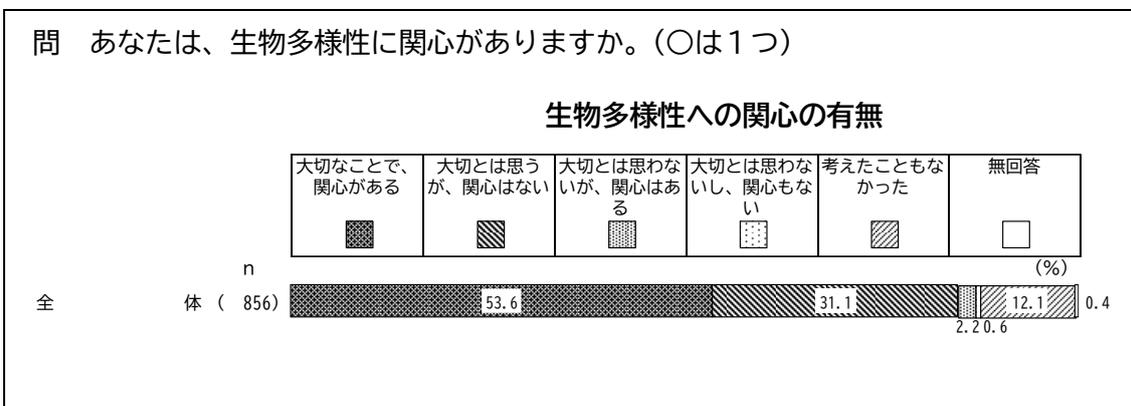
「生物多様性」の言葉の認知度は国の調査に比べ、高い傾向がある。  
若い世代ほど認知度が高い傾向がある。

※参考 内閣府 生物多様性に関する世論調査(令和4年7月調査)

「言葉の意味を知っていた」	29.4%
「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」	43.2%
「聞いたこともなかった」	26.5%

(2) 生物多様性への関心の有無

◇「大切なことで、関心がある」が5割台半ば近く

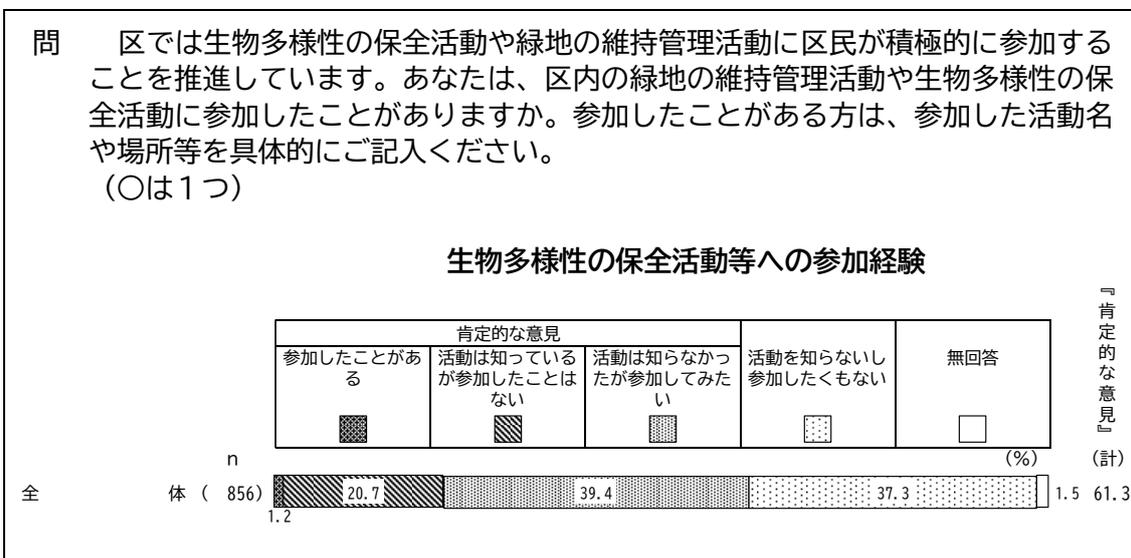


生物多様性への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(53.6%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「大切とは思うが、関心はない」(31.1%)が3割強、「考えたこともなかった」(12.1%)が1割強と続いている。

年代・性別にみると、「大切なことで、関心がある」は女性40歳代(61.8%)、女性70～74歳(61.5%)で6割強と高くなっている。

(3) 生物多様性の保全活動等への参加経験

◇『肯定的な意見』が6割強



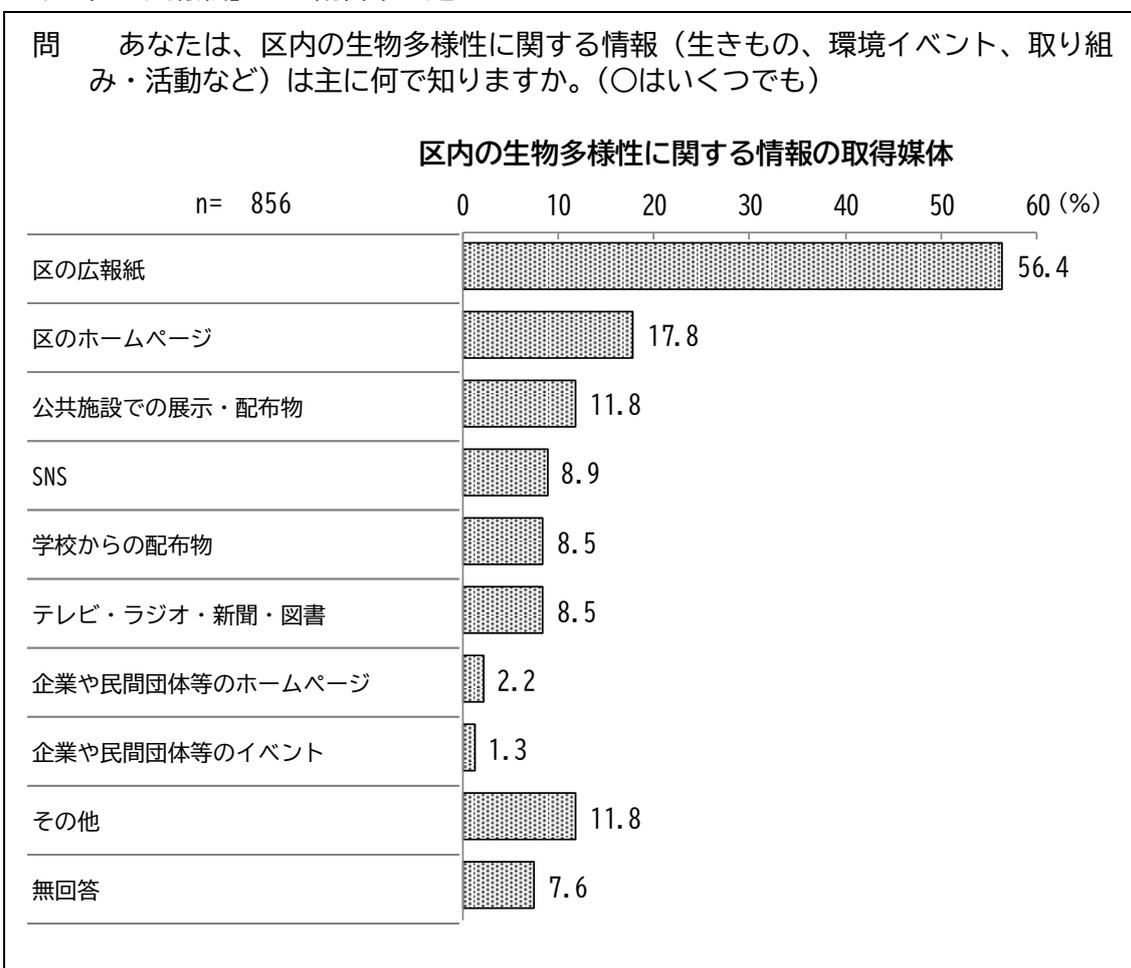
生物多様性の保全活動等への参加経験について聞いたところ、「参加したことがある」(1.2%)、「活動は知っているが参加したことはない」(20.7%)、「活動は知らなかったが参加してみたい」(39.4%)を合わせた『肯定的な意見』(61.3%)が6割強となっている。一方、「活動を知らないし参加したくない」(37.3%)は3割台半ばを超えている。

性・年代別にみると、『肯定的な意見』は女性 70～74 歳 (76.9%)、女性 40 歳代 (74.5%)、女性 50 歳代 (71.0%) で7割台と高くなっている。

生物多様性の保全活動の参加経験が少ない。  
一方で参加したことはないが、参加してみたい、では 40 歳以降の女性の割合が高く 7 割以上となっている。

(4) 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

◇「区の広報紙」が5割台半ば超え



区内の生物多様性に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「区の広報紙」(56.4%)が5割台半ば超えと最も高く、次いで「区のホームページ」(17.8%)が1割台半ば超え、「公共施設での展示・配布物」(11.8%)が1割強と続いている。

性・年代別にみると、「区の広報紙」は女性 70～74 歳 (82.1%)、女性 65～69 歳 (81.3%) で8割強と高くなっている。また、SNS は男性 18～29 歳 (27.8%) で2割台半ば超えと高くなっている。

区政モニター結果と同様に区の広報紙から情報を得る割合が高い。

- ・年齢が高い世代では区の広報紙のほか、新聞・テレビ・ラジオの割合も高い。
- ・SNSは若い世代で高い。
- ・区のホームページは年代別で差が少ない。
- ・学校からの配布物は子育て世代で高い